

1. 基本事項

作成日 令和03年06月18日(金)

施策		良好な市街地・住環境形成の推進		期間	H. 30 ~ H. 4	施策担当部課名	都市計画課
第2次総合計画	行政分野別策別名	大項目	200005 快適で利便性の高いまち(都市・生活基盤)	施策の概要 (目的や対象)		都市計画に基づいた適正な土地利用と都市基盤整備により、自然と都市機能が調和したゆとりある暮らしの形成を進める。	
		中項目	200001 都市整備の行き届いたまちづくり				
		小項目	200001 良好な市街地・住環境形成の推進				
重要度及び満足度の状況	良好な市街地・住環境の形成に対する市民の重要度は高く満足度は低い状況となっている。身近な街並みや周辺の住環境については概ね理解が得られていると感じる。			施策の推進のための主な取り組み	土地区画整理事業の推進		
施策を取り巻く社会状況等	人口減少・少子高齢化の進展、中心市街地の空洞化など様々な分野で転換期を迎えており、質の高い都市づくりが求められている。				良好な住環境づくりの推進 市営住宅の効率的、効果的な維持管理		

2. 評価指標

区分	指標名(上段) 算出式・説明(下段)	単位	指標値(上段は目標値・下段は実績値)					
			平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
成果指標	周辺環境と調和した土地利用がされていると思う市民の割合	%	-	55.60	55.90	56.20	56.50	56.80
	市民まちづくりアンケート		49.70	56.30	58.80	59.00	0.00	0.00
	新築住宅のうち市街化区域等(用途地域)内にあるものの割合	%	-	62.80	62.90	63.00	63.10	63.20
	都市計画基礎調査		63.80	67.50	66.51	66.80	0.00	0.00
			-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

3. 一次評価(今後の施策の方向性)

区分	1	1:現状維持 2:拡充 3:縮小
<評価コメント> 2つの指標について、目標を達成し、わずかながら数値も増えた。今後も引き続き地域住民の理解を得ながら計画的に事業展開を図っていく。		
評価者	都市計画課長 中島 隆	

4. 改善・改革プラン(3. 一次評価を受けての具体的な改善策)

区分	具体的な対応策等
<input type="checkbox"/> 既存事業の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施行中の土地区画整理事業については、継続的に整備促進し進捗を図る。 ・ 市営住宅管理事業については、引き続き市営住宅長寿命化計画に基づいた改修・改善を行う。 ・ 立地適正化計画については、現行の都市機能誘導・居住誘導の方策を整理し、適正な進行管理に努める。なお、その際には国が推進している「データを活用したまちづくり」の考え方を取り入れ、効果的な分析、検証について研究していく。
<input type="checkbox"/> 事業の新規立案	
<input type="checkbox"/> 事業の廃止・縮小	
<input type="checkbox"/> 事務事業の再編	
<input checked="" type="checkbox"/> その他	

5. 二次評価

<所属長の見解> 良好な市街地及び住環境を形成するためには、土地区画整理事業や市営住宅の維持管理事業を継続的に実施していくとともに、立地適正化計画に基づく住宅や都市機能を誘導する方策を実施し、「コンパクトなまちづくり」の実現を目指す。 社会が成熟かつ多様化しており、今後のまちづくりは大きな転換を迎える時期に差し掛かっていると思われる。そのうえで必要となるのは「高度なデータの活用・分析」である。国の「3D都市モデル」等、先進事例を研究し、活用の糸口を探っていく。	
所属長	都市整備部長 田嶋 英生